



号 外

発行 長崎県公立高等学校事務長会
長崎県立長崎東高等学校内
長崎市立山5丁目13番1号
〒850-0007 ☎095-826-5281
編集 事務長会広報活動委員会

海外研修報告

西彼杵高等学校
榎 稔

平成10年度の教育委員会事務職員海外派遣研修者として、平成10年10月28日から平成10年11月7日まで北欧の行政視察に参加いたしました。まとまりのない報告ですが、その内容の一端を御紹介いたします。

一、イギリス

☆社会福祉行政機構の概要
問題提起

- ① 社会福祉行政における国と地方自治体の関係と役割
- ② 社会福祉サービスにおける地方自治体の構造と行政組織
- ③ 社会サービスの部（第一線の行政機関）の機構

1) 国と地方自治体の関係

法律によって国はNHS（ナショナル・ヘルス・サービス）・雇用サービス・保護観察とアフターケアサービス・社会保障（補足給付・国民保険など）を担当し、地方自治体は福祉サービス（パーソナルサービス）教育・住宅・消費者保護を担当すると定められている。

次にこれらのサービスの具体的な実施に当たって、その権限と責任がどのように関係づけられているかであるが、この点についても国会が地方自治体の権限と責任を限定し、さらに地方自治体が提供するサービスにかかわるポリシーに対しても責任を負うとなっている。

そこで国は地方自治体に対して、おおむね次のよ

うな方法で監督・助言責任などを行っている。

(1) 財政コントロール

国は地方自治体に対して、一般補助金と特定補助金によって財政コントロールを行使する。地方自治体は国会の定めた法律によって認可されたことにのみ金を使うことができる。地方自治体の経常支出の平均約60%は一般補助金や特定補助金のシステムを通して、税金の中から国から交付されるものである。国は補助金のサイズをコントロールし、支給額の制限を設ける。

(2) プランニング・コントロール

国はある主要なプランニングの手続きを限定することによって地方自治体の行動に影響を及ぼすこともある。

(3) 監督官とアドバイザー

いくつかの社会サービスは中央省庁に直接責任のある監督官からの監査を条件としている。それらは教育サービス及び警察サービスとアフターケアサービスである。

さらにDHSS（保健社会保障省）には、ソーシャルワークサービスがあり、それは国の政策を地方で実施することについてイングランドの地方自治体社会サービス部にアドバイスを与え、地方の状況と発展に関しDHSSにアドバイスする。

(4) 国の通達

地方自治体の義務の履行方法は通達で限定されている。通達は国の全省庁から発行されており、強制的なもの、あるいは単に助言的なものもある。

二、ベルリン

① 復興のきざし

ベルリンは今世紀3度目の建築ルネッサンスを迎えている。ドイツ統一により、西側のどの大都市も経験したことのない、大きな挑戦に立ち向かうことになったのである。

廃墟と化したベルリンは近代のパピロン或はカルタゴとして、プロイセンの軍国主義、そしてナチス体制の戒めとして、そのまましておくべきだ。「街は完全に死に絶えている。煙のたちこめる廃墟を車で何キロ走っても、人の住めそうな所は一か所もない。この街は二度と立ち上がれないだろう。」1945年アーサー・テダー英国空軍元帥の目には破壊されたベルリンは、未来における過去の記念の地としか映らなかった。以前はヨーロッパ諸都市の改造は教会・君主あるいは国家の中央機関に完全に牛耳られていたが、現代の大都市には比較的力の弱い、公的なコントロール機関があるに過ぎない。投資台風の目はかって社会主義だった東ベルリンのフリードリッヒシュトラッセとウンター・デン・リンデンの交差点にある。両側に街路樹の植えられた美しいウンター・デン・リンデンの大通りは1647年には中央を東西に貫く最初の大通りであったが、それは今日に至るまで変わっていない。後にブランテンブルク門と王宮をつなぐ道路ともなったウンター・デン・リンデン通りには学術・行政・文化領域のすべての公共施設が居を構えている。

ウンター・デン・リンデンの高尚な文化的雰囲気とフリードリッヒシュトラッセの庶民的な活気の中に醸されていた緊張感が、再び生まれてくるかどうか、今のところ何ともいえない。

この目抜き通りの交差点では、40年間にたまりにたまった投資エネルギーが一変に噴き出している。

② 復興の中心地

ここを中心としてティアガルテンからアレクサンダーブラッツまでの周囲5キロ範囲内に、総計300万平方メートルに及ぶオフィス・商店そしてわずかながらも住宅を造ろうというわけである。フリードリッヒシュトラッセだけでも20の大型建物が新設されるが、その建物内の賃貸面積は56万平方メートルにもなる。

ブランデンブルグ門周辺だけでも4つの副中心

地が生まれることになる。

レールター駅付近の新しいベルリン中央駅・ポツダム広場・ライプチヒ広場地区・フリードリッヒシュトラッセ・そしてウンター・デン・リンデン大通りである。

これらの副中心地はまず別々に形成され、それぞれ完成してから全体の仕上げとなる。つまりあちこちの空き地や目立たない横道に都会らしい活気を吹き込んで、離れ離れの副中心地を結びつけていくのである。

③ 建物の建築制限

ハンス・シュティンマン州建設大臣は長い歴史のあるフリードリッヒ街に建てる建物の軒の高さ、つまり地上から雨樋までの距離は22メートルという基準を守ることが求めた。ところが投資家たちは二通りの逃げ道でこれに対抗。

一つは軒の高さの上に更に4階設けるが、たいていは各階を少しづつ後ろにずらして作り、道路から見えないように工夫した。

もう一つの逃げ道は地上に建てることを許可されなかった4階の建物を、地階で埋め合わせしようとするものである。

ベルリン・ミッテで一番大きくまとまった開発区域を形成しているポツダム広場付近では、土地の分割はすでに修正されている。1989年に6万2000平方メートルという広大な土地がダイムラー・ベンツグループに売却された時は、一市区全体がたった一人の投資家のものになることに対して激しい批判が起こった。ダイムラー・ベンツ社はその対応策として、大掛かりな建築コンペを主催し、同社の巨大な敷地に建築物を建てるべく、東京からマドリッドまでの6人の高名な建築家が選出された。そして目下そこではイタリア人建築家レンゾ・ピアノの指揮の元に、ハイテク建築家リチャード・ロジャース、日本人のポスト・モダンの建築家磯崎新、新保守主義のベルリン出身のハンス・コルホッフ、古典主義のスペイン人ラファエル・モネオといった国際的なスター建築家たちが作業を進めている。この建築家たちの建築群を見ると、まるで各国の最高品だけを集めた世界展覧会のような、まさに現代建築のフォルム・ロマネスである。

三. アムステルダム

① 盛り上がる環境保護運動

廃棄物をはじめ環境問題に早くから警鐘を鳴らしてきた市民運動が、先進国を中心に急速に台頭してきた。その勢いは行政レベルにまで及び、政府の政策に反映されるようになった。

その火つけ役になったのが欧州だ。国境を越えた酸性雨・チェルノブイリ原発事故やライン川汚染事故等に見舞われたことが契機となって、環境汚染保護運動が一気に高まった。

環境運動をスローガンに掲げる「緑の党」が80年に旧西独に誕生、スウェーデン、オランダ、英国などでも創設され、議会進出を果たした。オランダのように環境問題が総選挙で争点となり、政局を動かすほどの関心事になった国さえある。

② 先進的な欧州の廃棄物規則

北欧やデンマーク・スイスなどでは、先進的な廃棄物対策が展開されている。オランダでは89年10月「オランダ環境計画」を発表、厳しい排ガス規則を打ち出す一方、廃棄物対策でも、自動車・タイヤ・包装材など種類ごとに、政府と業界の間で削減率、リサイクル率・埋立率などの目標値を設定した自主協定を結び、徹底的な取り組みをみせている。

実際ロッテルダムの第3セクターが運営する廃棄物処理場では、廃棄物の97%をも再資源化するのに成功しており、リサイクル社会実現へのオランダの確かな足取りを証明している。

☆オランダの際立つ環境対策

整然と咲き乱れるチューリップ畑、牛や羊が草をはむ青々とした草地…。誰もが持つクリーンなイメージとは裏腹に、自然の地下水は肥料の残留物や殺虫剤、除草剤で汚染され、森林は酸性雨の危険にさらされている。OECDレポートによれば、クリーンアップ計画に乗り出して2年たった今も、オランダは「世界で最も汚染された国の一つ」だ。

国土の3分の1が海面下にあるオランダにとって、地球温暖化による海面上昇はまさに切実な問題である。

今や環境問題は政局を揺り動かすほどの関心事になっている。

① CO₂排出削減の試みは世界初

オランダ政府の積極的な環境政策は、世界的にみても際立っている。政府は89年5月に「オランダ環境政策計画」を発表した。これは5年間で環境向けの支出を2倍にし、2000年には汚染と現水準の70%まで削減しようというもの。さらに90年6月にはこれを強化した「NMPプラス」が発表された。

とりわけ注目されるのが“二酸化炭素 (CO₂)”の削減だ。国家政策としてCO₂総排出量の規制を試みたのはオランダが世界で初めてである。

NMPプラスでは94年度のCO₂排出量を89年度レベルに維持することを目指す。さらに2000年には3～5%の絶対削減が目標である。

② 廃棄物処理も結局は“カネ”次第?

政府が最も力を入れているのは化学廃棄物の処理である。オランダでは年に合計4万トン、一人当たりでは年平均2.8キログラムの化学廃棄物を出しているにもかかわらず、87年時点の回収率は10%ときわめて低かった。

このため翌年から政府・自治体、及び環境防衛協会がキャンペーンを開始、92年の回収率50%を目標に置いた。これを受けて化学廃棄物用廃棄場の設置・回収車の導入のほか、民間回収業者への委託、小売店への回収容器の設置、回収希望日時を連絡できる専用電話の設置などを進めた。

③ 活躍する“ケモカー”

ライデン市清掃局では化学廃棄物回収車(ケモカー)導入の拡大、古冷蔵庫の回収紙、ガラス類回収コンテナの設置拡大などに乗り出した。ケモカーには大型と小型の2種類があり、大型は月に2回廃棄場を巡回して回収し、小型は各家庭を訪問のうえ回収する。

四. パリ

パリの中心から北東部へ20分のヴィレット公園内にある科学産業都市は、世界で最も大きく、そして世界有数の革新さを誇る科学技術普及都市である。19世紀末から1960年代までは産業地帯としての役目を担ってきた土地でもある。

ここは新しいルーブル・バスチユ・オペラ・デファンスのアルジュ・オルセー美術館と同じく、新しいパリの発展のための国家プロジェクトのひとつ

である。

21世紀を前にした科学産業都市の願いは、人々が複雑な現代社会にうまく対応するための手助けをすることである。展覧会・スペクタクル・国際会議・子供向けアトリエ・テーマ別教室と、科学産業都市はさまざまな人々を対象に、いろいろなタイプの活動を行っている。

ーラ・ヴィレット（パリの最先端ゾーン）ー

1 機能

① 北部「科学産業都市」

1986年3月オープンの科学産業都市は現代文明における技術・経済・社会、そして文化的発展をよりよく理解したいと願う人々のニーズに答える施設である。ジェフォードはスチール球面のオムニマックス映画館で、都市の中でも最もスペクタクル要素の強いものである。

② 南部「音楽都市」

音楽と舞踊のための総合施設として教育・普及・調査・そして音楽制作のために構想されたものである。1990年10月には「パリ国立高等音楽院」が、1994年9月には「楽器博物館」が落成しました。

③ 緑地帯

「科学産業都市」と「音楽都市」の間には緑地帯を設け、芝生の丘や遊歩道庭園の整備された巨大公園など、パリで唯一の文化イベント開催の場となっている。

2 教育・養成の使命

① 一般教育制度に合わせて科学産業都市では6才から18才までの生徒を対象に、1～2週間の滞在型ヴィレット教室が開催され、6年間で9百を越える教室が開かれた。

② 養成活動

毎年開催の「ヴィレット会議」では教育事業・養成事業の一環として教育と研究・産業の交流が行われている。これは教育者を対象として、日常生活に大きなインパクトを与える今日の科学テーマを基に開かれている。

③ 職業選択課題

創設以来7年間、科学産業都市は数多くの協力機関と共に、進路指導・養成・就職のための活動や教材作り、サービスに携わってきた。職業教育、

就職に関する情報を求める人すべてが利用できる、常設・無料の案内・情報提供・オリエンテーションの場としての「職業への道」という特別スペースが設けられたわけである。

所感

この度北欧4ヶ国を訪問することにより、ヨーロッパの国々の壮大で壮絶な歴史の変遷を目の当たりにし、その奥の深さと広がりを感じることができ、多くの遺跡や芸術作品を見ることにより、各時代の権力の強さと芸術性の高さに感動を覚えた。

また、いづれの国も歴史を非常に大切に考え、法律により遺跡や古い建物等を守り保護している等は、学ぶべき点であると感じた。古いものを守りながら、新しいものを自然に調和させていこうとする、知恵や姿勢は学ぶところが多く今後に生かしたい。

街並みも電柱をすべて地下に埋設する方法を採用し、非常にすっきりした美観を造り出しており、こんなところにも新しいものを調和させていこうとする強い姿勢が伺えた。

ベルリンのヨーロッパ最大といわれる工事現場には、ユーロ圏で一つにまとまろうとする意欲と活気に満ちあふれており、これに日本企業の進出も加わっていたが、その建築物からはわが国の経済力の強さを感じ取れる部分もあった。

過去にヨーロッパは多くの植民地を持っていたために、国内にはたくさんの人種が流入し、これに対する政策が大変だと伺った。福祉施設の入所者を例にとっても食事・文化・宗教等の違いから介助の方法が異なり、建物自体の設計にまで影響を及ぼしている。ボランティア活動にしても資格制度がはっきりしており、無資格者の介助はケア以外の仕事に限定され、老人を食い物にし財産をねらうものもいるため、活動参加者は警察による厳しいチェックも行われている。

最後に、この研修会で学んだことは今後の自らの仕事の中に大いに応用していきたいと考えています。

